創立80周年記念

図書館のあゆみ

平成16年９月

―町制50周年記念―

小布施町立図書館

『文質彬彬』

為小布施記念図書館

鎌田栄吉書

閲覧室の額

文質彬彬とは、論語の中に出てくる言葉で、

「子曰わく、質、文に勝てば則ち野。文、質に勝てば則ち史。文質彬彬として、然る後に君子。」

とあります。

文質とは、文明と素朴、文飾と実心、派手と地味、形態と実質

彬彬とは、相半ばするかたち、兼ねそろうさま、つりあいがとれること、調和すること、

したがって、文と質とは、どちらに片寄ってもよくない。この二つは相寄り、相助けて人間生活を成立させる最も重要な要素である。

鎌田栄吉
（一八五七－一九三四）

和歌山県出身の教育家、政治家。師範学校長、慶応義塾大学総長、帝国教育会長、衆議院議員、貴族院議員、文部大臣、枢密顧問官等歴任。

開館八十周年を祝う

小布施町長　唐沢彦三

「明日が幸せになること」本には、すべて意味が込められている。一度読んで解らなくても繰り返し読むことによって、おのずから意味が解ると言われている。これが「読書百遍意自ずから通ず」と言われてきたことである。今日意味のない発言や意味の解らない発言、利己主義的な発言を聞くことが多くなった。

書物にふれることを避け、テレビなどでの勝手気ままな発言をよしとしていることが、文字離れ、意味離れから思い込みのみの人間になってきているように感じる。

これが、今日的混乱、自己中心的な社会になり、子どもたちも自分の思い込みで生きて何が悪いと考えるようになってきたのだと思われる。

命と対話するのが読書であり、思い込みを壊してくれるのも読書である。

「明日が幸せになること」は、愛情と手間をかけることである。

今年、町立図書館が創立されて八十周年を迎えた。小布施の文化、創造、そして愛情と手間をかける意味を大正十二年から昭和・平成と八十年間にわたって築き上げてきた先輩・先人に感謝しなければならない。書物が不足がちな時代から、小村でありながら読書・勉学・調査などに図書館を利用することによって、意味のある人間形成のできたのが小布施人であった。

小布施人は誇り高く
その誇るべき根拠は
ただ小布施人であること
なのである……

創立八十周年を迎えた町立図書館が、文化の町にふさわしい感性と創造の誇るべき場としていよいよ発展されんことを期待し、お祝いのことばとするものである。

昭和22年～33年当時の町立小布施図書館

雨の日曜日

教育委員長　岡野照美

数人の中学生がエアコンの効いた図書館で勉強していました。町民が三人本棚を捜していました。私が中学生の頃小布施の図書館は蝉しぐれの中、扇風機が廻っていて、やはり静かでした。ガラスケースの中、鴨居の上の渦山先生の絵が目に浮かびます。

小学生の頃は子供向けの古典、中高校生では翻訳の西洋文学に熱中して、目が悪くなると怒られながら、隠れて読んでいました。その後、子供が小学生になると夏休みの宿題のネタ捜しに図書館を利用させて頂きました。五十代になって、本格的に古典にはまり、古事記・日本書記・風土記・万葉集・仏典・聖書等々読みあさり、今度は注意してくれる人もなく完全に近視になってしまいました。

現在はテレビ・インターネット等で様々の情報が簡単に見ることが出来ますが、私はダイジェスト版より全集にざっと目を通すのが好きで、読書は私の唯一の楽しみです。

親しまれる図書館に

図書館長　浅岡修一

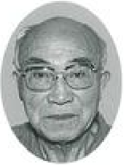
小布施町立図書館が創立八十周年を迎えた。大正・昭和・平成と長い年月を重ねた歴史の重さに、あらためて先人のご労苦に敬意と感謝を申しあげるものである。

中学生のころ、中学校の横にあった図書館（現在の須高農協小布施支所の位置）に、何度か行ったことがあった。学校の図書館の本棚にはない本が数多くあり、活字の一杯詰まったページをめくっていると何か大人になったような気持ちになり、誇らしげな気分になったことが思い出される。

読書離れ、活字離れが言われて久しい。ＩＴ化の進む今日、情報収集の場が図書などの活字からだけでなく多方面から得られていることは事実である。図書館の果たす役割が、以前のように図書を媒介としてのものだけではないとも事実である。理想的な図書館像は描くことはできるが、限られた条件の中で一歩でもそれに近づくように、町民の皆さんに親しまれる図書館をめざして今後とも努めて参りたい。

歴史に刻まれる館を！

図書館協議会長　倉俣恒夫



“図書館は本の森”…平成十三年十二月上旬に講演された菅原峻先生の著書の表紙扉にサイン頂いた印象的な言葉です。図書館を森に形容するからには、手抜きすれば雑木林化となる警告と受止めました。

町の図書館は八十年の歴史を刻む中で、常に充実した管理運営に尽力された館長と専任司書が在り、そして事業の一翼を担う母親文庫の組織やおはなし会等のサークル活動には称賛と深甚の敬意を申しあげます。

利用者から設備面での改善要求度が高級化している現状ですが、豊富な蔵書冊数四万九千余が見事に分類整備されていること、個人貸出冊数も年間三万二千以上。貴重な数です。図書館は無料貸本屋ではありません。切迫する情報社会に対応できる生涯学習の支援施設として、誰でも気軽に立寄れる知的満足と憩いの場ともなる新しい図書館の早期実現を願望するものです。

80年のあゆみ

▼大正十二年　摂政宮皇太子裕仁殿下のご成婚ならびに前年迎えた学制発布五十周年の記念事業として、市村達村長が主唱し、学務員等と計り、村営図書館の設置を計画した。九月一日村会に於て議決し、十一月県知事の認可を得る。

本間県知事視察（大正13年５月）村立小布施記念図書館
左より中沢照珊（小布施小学校長）、市村　達（小布施村長）、本間利雄（長野県知事）、杉原定寿（上高井郡長）の各氏

小学校長を館長として、小学校第五校舎階上に「村立小布施記念図書館」として設置する。十八日同講堂に於て開館式を挙行する。

　関東大震災の直後のことで図書の収集には苦労を要したが寄付行為等によって、三か年の充実計画が半年余りで達成され閲覧を開始した。

　一般図書の他に児童文庫を設けて小学校の時間割に読物時間を特設し利用指導を行い、高学年生には休日に一般図書の閲覧を許した。

　また、新たに結婚した者には記念として生活改善の意味も含めて、図書館への寄付を依頼した。

▼大正十三年　郷土の先覚者高井鴻山の蔵書等を譲り受けて鴻山文庫を創設する。

▼昭和二十年　八月十五日、連合国に降伏し、敗戦という未曾有の事態に遭遇し、混乱期に入る。

▼昭和二十一年　一月、太平洋戦争関係図書を中心に焼却し整理の為貸出しを停止する。

▼昭和二十二年　四月、小布施村公民館が設置され、図書館は小学校より役場隣接の公民館内に移り再開する。

　従来小学校長が兼任していた図書館長は以後公民館長の兼任となる。

▼昭和二十五年　四月、図書館法が公布される。

▼昭和二十六年　二月、図書館法施行に伴い図書館設置報告書を提出して、新たに「村立小布施図書館」として発足する。

▼昭和二十七年　十一月一日、小布施村教育委員会の設置に伴い図書館の管理は、村長から教育委員会に移る。

▼昭和二十八年　図書館設立三十年の記念事業として、篤志寄付金十万円を募り充実を計る。六月から従来の分類法を日本十進分類法に改め、配架方式も開架式とする。

▼昭和二十九年　二月、町制施行に伴い、「町立小布施図書館」に改める。

　六月、りんご栽培の先覚者平松藤内翁の頌徳碑建立を記念して、図書基金五万円の寄贈を受け、農業関係図書を購入して「平松文庫」とする。

　十一月、小布施町と都住村との合併により新しい「町立図書館」となる。

▼昭和三十年　四月、母親文庫が発足する。

▼昭和三十四年　十二月、旧小布施中学校の校舎の一部を改装して図書館として移る。

母親文庫は須高配本所の傘下となる。

▼昭和三十五年　九月、図書館設置条例により、「小布施町立図書館」と名称を改める。

▼昭和三十八年　十月、町出身東京都在住の西原和吉氏より図書購入資金として十万円の寄付を受ける。

　十一月二十九日、公民館に於て創立四十周年記念祝典を行う。

▼昭和三十九年　十月、西原和吉氏より昨年に続き更に三万円の篤志寄付を受ける。

　十月三十一日、小布施、都住合併十周年の記念事業として玄関に「小布施町立図書館」の標識を掲げる。

▼昭和四十五年　館内の天井と壁板の改装を行う。

▼昭和四十七年　旧都住小学校の南校舎（現歴史民俗資料館）を改装して移転する。従来公民館に併設されていたが独立館となる。

　十一月一日、独立の新図書館として開館式を挙行する。

▼昭和四十八年　一月一日、従来公民館長が兼任していた図書館長が専任となる。

　三月、長野県郷土資料総合目録作成に参加し、当館の資料も長野県郷土資料分類法で再分類する。

　東京都の西原和吉氏より十

万円の篤志寄付を受け、辞典類を購入する。

十一月十日、創立五十周年記念式典を農業センターで挙行する。図書館の要覧を作成する。

▼昭和五十年　五月、児童室を開設する。

▼昭和五十一年　三月、県立須坂高等学校小布施分校閉校に際し同校の図書一、七〇〇冊の寄贈を受ける。

八月、館内資料の分類目録カードの作成に着手する。

九月、金子学水氏より北斎館開館記念として図書一、一三六冊の寄贈を受ける。

▼昭和五十三年　九月二十一日、新図書館の建設について、県社会教育課に申請する。同二十九日上京して文部省に陳情する。

昭和47～53年当時の図書館

十一月八日、議会に於て議決し、同十一日、新図書館建設工事に着手する。

▼昭和五十四年　三月三十日新図書館が完成する。五月二日、図書の搬入配架等の作業を行う。六月一日、新図書館で業務を開始する。

同月、須高図書館協会主催の読書感想文コンクールを毎年開催することを決定する。

七月二十一日、図書館及び庁舎等の竣工式を行う。

▼昭和五十六年　三月、前町長の遺志として市村あや子夫人より図書館基金の寄贈を受け辞典類を主に購入し、市村文庫を開設する。

▼昭和五十九年　図書館創立六十周年と町制施行三十周年の記念事業と併せて行う。図書館のあゆみを作り配布する。

▼昭和六十一年　七月、カウンターにクーラーを設置する。

一月、ビデオディスクプレーヤー四台を設置する。

▼昭和六十二年　八月、ビデオディスクプレーヤー四台を設置する。

▼平成元年　三月、VHSデジタルハイファイビデオ二台を設置する。視聴覚器機は合計十台完備する。

六月、栗ガ丘小学校PTAに図書約二百冊を貸出し分室とする。

▼平成二年　七月、長野刑務所に図書室設置につき蔵書寄贈の依頼あり、児童書を中心に約千冊協力する。

▼平成三年　六月、母親文庫会員有志により、おはなしの会を結成し、児童を対象に月例会を実施する。

▼平成四年　十二月、貸出利用者登録票と貸出利用券の様式と方法を改める。

▼平成五年　八月、蔵書台帳の整理に着手し、紙芝居の分類記号を新設する。

▼平成六年　十月、創立七十周年の祝賀を町制四十周年の行事と併せて行い、小布施町立図書館七十年の歩みを全戸に配布する。

▼平成七年　十二月、快適に利用するために、スチール書架の購入、ソファーの改修を行う。

▼平成八年　金子文庫書籍を㈶北斎館に移籍する。

▼平成九年　北側壁面塗装を行う。生涯学習県民・町民のつどいに母親文庫協力する。

▼平成十年　九月、幼稚園にパネルシアターを貸出す。

高山村公民館視察来館する。

▼平成十一年　六月、DVD

歴代館長

	氏	名	就任年月日
初	中沢	照暸	大正 12.11.18
○	増田	経三	15.12.20
2	清水	政吉	昭和 2.4.8
3	丸山	政雄	8.3.31
4	清水	虎治郎	13.3.31
5	大峡	三雄	15.4.1
○	山岸	吉治	18.11.20
6	坂田	豊太郎	19.4.1
7	稲田	猶治	20.12.21
8	林	柳波	22.4.29
9	市村	公平	24.4.11

プレーヤー三台を設置し、全館冷房にする。

▼平成十二年　五月、DVDプレーヤー三台を設置する。「ちくまがわ」二十五号発刊

▼平成十三年　五月、DVDプレーヤー二台設置する。北信公共図書館連協職員研修会が開催される。

▼平成十四年　四月、土曜日が完全に一日開館となる。施設用ベビーカー二台設置。六～七カ月の全ての赤ちゃんと保護者に「赤ちゃんと絵本を開く時間の大切さ、楽しさ」を伝えるブックスタートを開始する。

▼平成十五年　三月、モニターテレビ一台設置し、DVDソフトも九十本になる。階段カーペットを修繕する。

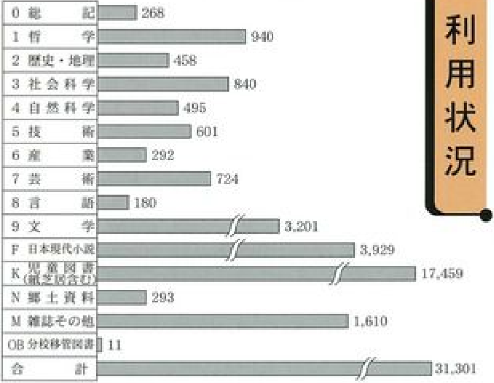
▼平成十六年　十一月、町制五十周年の行事と併せ、小布施町立図書館八十年の歩みを全戸に配布する。

10	村松　清	26. 4. 1
11	市村　公平	27. 4. 1
12	平松　幸五	29. 5.10
13	篠澤　明義	34. 4. 1
○	池田　亀松	34.12. 7
14	池田　亀松	35. 4.18
15	篠澤　明義	36. 5.18
16	持田　三郎	39. 4. 1
17	鶴田　宏	41. 7.29
18	久保田　忠雄	45. 6. 1
19	市川　孝一	48. 4. 1
20	小林　百枝	51. 4. 1
21	土屋　弘	57. 4. 1
22	八代　春雄	平成 元. 4. 1
23	林　秀純	2. 4. 1
24	小玉　仁人	8. 4. 1
25	木下　喜久雄	14. 4. 1
26	浅岡　修一	16. 4. 1

註
(1)　○印は館長代理者
(2)　初～7代までは、小布施小学校長が兼任
(3)　8～18代まで、小布施村・小布施町公民館長が兼任
(4)　19代より図書館が独立して、専任館長
(5)　26代は教育長が兼任

利用状況

分類別貸出冊数状況（平成15年度）

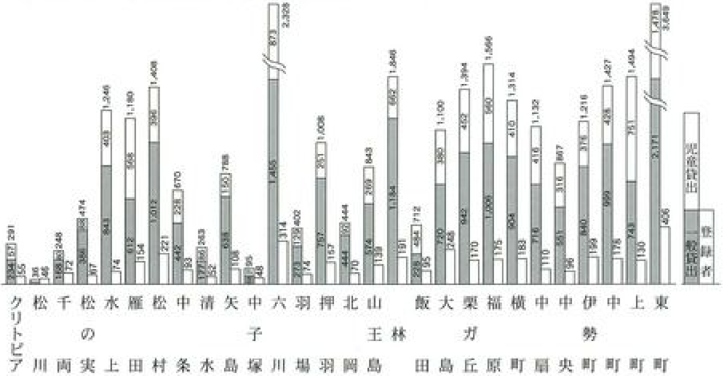


※OB……須坂高校小布施分校蔵書

利用の推移

年度	(入館者) 利用者	貸出冊数
大正	人	冊
14年	2,408	2,647
昭和		
6年	1,138	1,462
16	1,307	2,311
26	1,327	1,885
36	4,200	6,462
46	3,108	4,274
56	11,075	23,409
平成		
3年	15,774	24,228
13	15,615	24,016
15	20,351	31,301

自治会別登録者数及び貸出利用冊数（平成15年度）



母親文庫とおはなしの会

◇母親文庫

昭和三十年、母親クラブを運営母体にして、母親文庫が発足した。読書を通した様々な活動の中から、子ども達のためのおはなしの会が結成され、ボランティア活動として活躍されるなど、母親文庫としての資質は大変高い。

活動は、月一回の配本会、研修会等の参加、文集「ちくまわ」の発刊など活発な活動をしている。

新会員大歓迎です。

予算のうつりかわり

（　）内は公民館費

年　度	図書館費	図書購入費
昭和３年	863円	500円
8	1,174	100
13	875	300
18	1,073	300
23	(173,868)	7,700
28	(565,250)	97,600
33	363,040	139,720
38	797,770	271,980
43	950,000	584,000
48	2,014,000	900,000
53	8,684,000	2,283,000
58	7,058,000	2,400,000
63	9,982,000	3,969,000
平成５年	11,206,000	3,476,000
10	12,403,000	3,609,000
15	15,074,000	3,643,000

活が

◇おはなしの会

平成三年六月、子ども達に読み聞かせや、おはなし、パネルシアター、紙芝居等により、豊かな心を育てるとともに、本の楽しさ良さを知っていただき、読書意欲を高めていただくために結成された。

会員は十六名で五班に分かれ、月例会を輪番で担当している。子ども達と本を通じて親しみ、楽しまれているボランティアグループである。

図書館現況

平成十六年度

○職　員　館長（兼）　一名
　　　　　職員　　　　二名

○予　算　総額
　　一三、八五七、〇〇〇円
　　図書購入費
　　三、五一一、〇〇〇円

○委　員　図書館協議会委員　九名

○施　設
閲覧室　一九四・四〇㎡
書　庫　二二・五八㎡
郷土資料室　一九・三三㎡
児童雑誌コーナー　四四・二六㎡
司書コーナー　二二・四七㎡
事務室　一四・九三㎡

分類別蔵書数

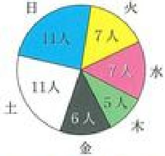
平成15年度蔵書点検現在

分　類	内　　容	蔵書数
000～099	総　記	996
100～199	哲学・宗教	1,290
200～299	歴史・地理	2,575
300～399	社会科学	2,934
400～499	自然科学	1,105
500～599	工業・技術	845
600～699	産　業	885
700～799	芸術・体育	2,133
800～899	言　語	599
900～999	文　学	5,100
F	日本現代小説	2,304
K	児童図書	10,499
P	紙芝居	373
N	郷土資料	2,081
OB	分校移管図書	1,741
その他	市村文庫	211
	山岸文庫	125
格納図書	湧山文庫	1,164
	郷土資料室	705
	書　庫	10,324
合　計		47,989

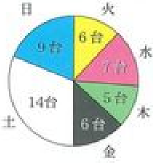
※分校移管図書は、須坂高校小布施分校よりの寄贈図書

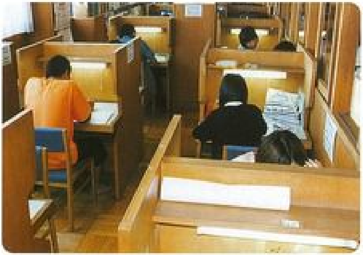
平成15年度 曜日別利用状況

学習机利用人数（週平均47人）



ビデオ利用台数（週平均47台）





「学習室」

「ビデオ室」

現在の小布施町立図書館

利用案内

▽開館日
火曜日～日曜日
午前九時～午後五時

▽休館日
月曜日、国民の祝休日、年末年始（十二月二十九日～一月三日）月末整理日、蔵書点検期間。

▽館外貸出
一人三冊まで十四日以内。

▽調査相談
必要な資料や情報をみつけるお手伝いを致します。

▽コピーサービス（有料）
図書館の資料に限り著作権法にもとづいてコピーができます。

▽その他
○書名目録カードで図書を探すこともできます。
○貸出中、未所蔵の本は予約（リクエスト）ができます。
○品切れ・絶版などの事情により町の図書館で購入できない本の場合は、他の館から借りることができます。（相互貸借）

編集／小布施町立図書館　発行人／浅岡修一　印刷所／広角印刷